

皆様方から頂いたご意見は、そのままの文章で掲載しています。

① 八女市障がい者基幹相談支援センターについて

○質問、わからないこと

- ・ 分からないことが、分からない。①～④の違いも分かりにくい。
- ・ リーベルが何をしているのか、分からない。
- ・ どういう担当割り？担当が曖昧な人がいる。地域で分けている？相談支援事業所で分けている？新規ケースは、どういう風に振り分けられる？
- ・ 基幹の役割がそもそも分からない。困ったら聞こうと思うが。もう少し整理してもらえたら、業務の位置づけ。
- ・ 新規のアセスメントをきちんととってからつないでもらうと助かる。児童さんは特に保護者の意向も大事になってくる。
- ・ 相談員によって最低限もらいたい情報に差がある。リーベル内にも差がある。同じフォーマットで聞き取りするなど、アクションがあると助かる。
- ・ どこまで頼っていいのか？スピーディな対応の為、事業所で解決している。家族からの相談を受けて、事業所にて対応が出来ない場合があり、どこまで対応してもらえうるのか。
- ・ 職員の配置（基幹と計画作成者で別れているの？）
⇒事業所として受ける側、以前は部会が活発。
- ・ 支援計画作成と支援担当者が別でわかりにくいこと。
- ・ 八女市と広川町の委託だった。八女市の基幹センターとなって、今の位置づけとして「広域」なのかと言う疑問ある。それぞれの各事業所が部会など、会議や意見交換の場に参加する立ち位置が明確に示されたほうがいいのでは。（構成メンバーも含めて）各地域から参加の案内があるため、多くの会議に参加必要な為、立ち位置を知りたい。
- ・ 以前よりも事業所のレベルが上がっている。⇒リーベル以外の人に聞くことが出来る状況
- ・ 入所は接点がない。
- ・ 研修させてもらえる場所と言うとらえ方をしている。部会に参加させてもらって良かった。児童、保護者の情報が沢山あるとより良い支援が現場は出来る。
- ・ 社協とのすみわけ、どう違うのか（２）
- ・ エリアはどこまで？
- ・ 何の力を借りることが出来るのか、分からない

- ・地活を辞めた⇒再開した（リーベルで・・・）
- ・相談員の方以外で、かかわりが少ない。
- ・リーベルネットワーク会議の所属している数、事業所が分からない、どういう方々がいるのか？
- ・ネットワークを通じて、どういった事業所があるのか、どういったサービスがあるのか、社会資源が八女や広川の事業所はどういったところがあるのか、どんなことをしているのか分からない。
- ・困難や複雑な家庭の会議時にリーベルが入ってくれるのがありがたい。
- ・事業所の冊子があればいいな
- ・事業所の空きが無く、ニーズに応えるのが難しい
- ・子どもの特性と合わせた支援につなげれば
- ・グレーゾーンの方が不登校になってしまうケースもある、制度の間の支援が出来れば。
- ・広川 不登校児童の対応「あしたば様」 送迎サービスがない、移動サービスも必要では
- ・意思決定支援への対応の難しさ、どこまで児童の要望に寄り添うのか？
- ・児童のみでなく、保護者へも支援が必要な場合の対応。SSW へどうつなげるのか。
- ・部会や懇親会などがあれば参加したい。

○要望、期待すること

- ・モニタリングの依頼をすることがある、相談員さんも足りてないのでは？
電話モニタリングもあるが、そうではなく、半年に1度は保護者、学校を含めて集まって話をする機会が必要と考える。事業所も足りていないが、相談員も合わせて増員が必要ではないか？
- ・広報をもう少しして欲しい、知らない。
- ・基幹に専念して欲しい。
- ・相談しても直ぐに返ってこない。
- ・新しい制度が始める時には、もう少し早く動いて欲しい。
- ・事業所が抱えている難事例を一緒に考えて欲しい
(相談員ではなく、現場からの相談を受けて欲しい。)
- ・他の事業所のことを知る機会を。(選択支援にもつながる)
- ・就労部会⇒話し合う内容を事前に決める
- ・一般就労、A型、B型…互いの内容や能力の理解(互いに見学したりなど)
- ・ハローワークやデュナミスさんが見学に来て、それぞれの目線で一般就労に移行できるのか。

- ・身近なところの研修をして欲しい。
- ・アート展はすごく良いのでは
- ・自立支援協議会から部会設置に至った経緯、流れを明確化したらよいのではないか、今後の方向性・方針をもとにした会議の開催を目指すべきでは。事前準備をした上で部会再開をしてもらいたい（より回数を増加して）
- ・不登校児の制度の間にいる方の支援が限られており、地域の課題(特にグレーゾーン)
- ・不登校の方の支援の場所の情報提供があれば、繋げていける
- ・不登校児への対応（八女市は動きが早い、広川は時間を要する）
⇒教育委員会には不登校の情報の共有
不登校については、出席率等の報告の義務がある。
- ・使える資源の情報提供
- ・就労選択支援の情報をもう少し詳しく聞きたい。それだけの説明会をしてもらいたい
- ・八女市以外の市町村の研修案内が流れない。
- ・大変良くしていただいている。
- ・介護・福祉の合同研修会は良かった。今後も続けてもらいたい。
- ・研修会ではなく、教育関係機関とグループワークなどをしたい。
- ・高校とのやり取り気になる。小、中は理解ある。

○地域課題について

- ・入所・GHの利用者の高齢化
- ・人材不足、人手不足
- ・家族それぞれに課題があるケース
- ・事業所の特色を知りたい
- ・部会や意見交換の場に参加する機関が限定される。マンパワー不足で限定した機関の負担が大きい。
- ・部会（集まる場）が少なくなった（就労系で）⇒地域や事業所の流れが分かりづらくなった。
- ・ハローワークさん：事業所の見学をしたい（利用者へ紹介しやすくなる）
- ・A型、B型のぶちゃけ話、苦労話など
- ・一般就労移行（ハローワーク、デュナミス）とA型、B型との方向性乖離
- ・Aさんが課題と思うことでも、Bさんの施設では問題ないこともある
- ・緊急の対応⇒拒否ばかりの方（家族も拒否）
- ・リーベルが代表で連絡はしやすい環境にある（連携がしやすい）
- ・事業所が足りていないことで、今後増やすとともに、相談員さんは足りているのかと

言う点は課題と考える。不足していることにより、タイムリーな問題解決が必要な事案に対して対応も難しいのではないか。

- ・児童発達支援から利用している方が成長され、放デイも自動的にエスカレーター式に利用されることが前提になっている。（保護者もずっと利用が当たり前になっている）

- ・本当に放デイは足りないのか。利用者さんがステップアップして課題クリアしていく。卒業していてもいいのではないか（決して見放すつもりではない）

- ・児童（児発・放デイ）が集まる会議や話し合う場があったらよい。お互い高め合えたらよい。

- ・地域資源、山間部は乏しい。居宅介護もなかなかない。介護保険でも社会資源がない。

- ・八女市山間部加算が付くと、受けてもらえる事業所が増えるかも・・・。

- ・HP,買い物大変、とくし丸ありがたい。

- ・ヘルパーの空き状況が分かると・・・

- ・放デイの空き状況が分かると・・・

- ・学童より放デイの方が、家族は学校は楽、ラインを決めて欲しい。

- ・学童の先生の研修がない。

以上